

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 湘南学園中学校高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 251-8505

神奈川県藤沢市鵠沼松が岡4-1-32

E-mail yoshikawa@shogak.ac.jp

Website http://www.shogak.ac.jp/highschool/

幼児児童生徒数 男子 633名 女子 551名 合計 1184名

幼児・児童・生徒の年齢 12歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「自ら学ぶ意欲を持つ生徒」を育成する体制づくりをめざすこととした。その実現をはかる理念としてESDを前面に出し、ESD推進委員会をたちあげ、「総合学習の再構成を中心とした、教育諸活動の関連づけ」をするための議論を開始・継続している。

具体的には、①総合学習に係る活動、②グローバル教育に係る活動、③その他の活動を行った。

① 総合学習に係る活動

中1は「『個人の尊厳』～自分らしさを大事にすること、人と違うことって素晴らしい～」を大テーマに活動。中2は湘南地域の課題解決をめざしてクラウドファンディングを利用したPBLを実施。中3は「平和」「暮らし」「環境」の3テーマを軸にフィールドワークと研修旅行を実施。高1は「命の尊厳～人間らしく生きられる社会を目指すために～」を大テーマに活動。高2はSDGsを軸にフィールドワークと研修旅行を実施。研修旅行後にはクラウドファンディングを利用したプロジェクトを実施。高3は「REVOLUTION FOR FUTUER 未来のための変革を求めて」を大テーマに活動。

②グローバル教育に係る活動

学校主催の、希望者参加の海外セミナーとして、春休み時に「台湾」「イングランド」、夏休み時に「オーストラリア」「カナダ」「アメリカ」「ポーランド・リトアニア」の各セミナーを実施した。また、オーストラリア・アメリカ・フランス・リトアニア・タンザニア等からの中高生・大学生などの方々の訪問を受け入れた。

③その他

- ・ 9月3日に「第3回ユネスコスクール神奈川県大会」の会場校となる。
- ・ 「首都圏の中高生が考える『鹿児島県鹿屋市が抱える100の課題』 チャレンジ事業（かのや100チャレ）」への有志による継続参加。日本財団主催「海洋アカデミー」、藤沢市民活動推進機構主催「地域でつながるワカモノ×NPOインターンシッププログラム」、ユネスコ協会主催の「ESD パスポート活動」等の有志による活動を実施した。



第3回ユネスコスクール神奈川県大会



高2 総合学習



ポーランド・リトアニアツアー



オーストラリア姉妹校との交流

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCD)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

中1 総合学習で『ココロノウタ』『ちーちゃん』『うまれる』等。
中2 及び高2 総合学習等におけるクラウドファンディングサイト「スカラシップヤード」(<https://scholarshipyard.com/shonan-gakuen/>)
中3 総合学習で、『論文ワーク』等。
高1 総合学習で、NPO 法人 Rebit の「ReBit 出張授業レジュメ」等。
高2 総合学習で、SDGs 等。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

湘南学園における教育活動の全てを結びつけて「湘南学園ESD」を構築することをめざし、年4回、執行部と各教科代表教員を構成員とする「ESDカリキュラム構想委員会」を開催し、「湘南学園ESDカリキュラム」の策定を進めている。研修旅行を含む総合学習を軸に、各教科の内容も結びつけられるように工夫改善をしている。例えば、中3研修旅行において、広島を訪問するにあたり、社会科における歴史学習の他、国語で『黒い雨』、音楽で『消えた八月』を扱うなどしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

②であげた「ESDカリキュラム構想委員会」の他、各学年から1名のESD推進委員及び企画主任・教務主任・生徒会指導主任の計9名からなる「ESD推進委員会」を、週1回の定例で開催している。各学年の総合学習は、ESD推進委員である教員を中心として、「総合学習カリキュラム」及び「湘南学園ESDの指針」にもとづき、年度ごとに学年の実情にあわせて計画する。各学年ともに、生徒から総合学習委員を募り、総合学習委員が前面に出て活動していく。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

前ESD-J事務局長の伊藤通子氏とECOM代表の森良氏に、ESDアドバイザーを依頼している。年に数回、来校していただき、その時点での取り組み状況等についてお知らせし、アドバイスをいただくことにしている。様々な主体と連携して湘南学園ESDが進められている一方、「教員の多忙感の拡大」や、「ホールスクールアプローチの不足」が認められる。また、活動内容におけるPBLの深化がより求められる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

9月に神奈川県ユネスコスクール連絡協議会の主催で本校において、「第3回ユネスコスクール神奈川県大会」が開催された。本校におけるESD的な活動(「かのや100チャレ」「ポーランド・リトアニアツアー」「東北部」等)について、在校生や卒業生が語る形式で発信することができた。活動を客観的に振り返ることで、今後における工夫・改善のための足場とすることができた。また、クラウドファンディングを利用したPBLを導入することで、いくつかのESDプロジェクトを広く発信することができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

在リトアニア日本国大使館、在日本リトアニア共和国大使館、神奈川県、藤沢市、平塚市、鹿児島県鹿屋市、東海大学、玉川大学、東京海洋大学、慶応大学藤沢キャンパス、藤沢南ロータリークラブ、神奈川県不動産鑑定士協会、藤沢市民活動推進機構、湘南市民メディアネットワーク、鎌倉ユネスコ協会、湘南ベルマーレ、ホロコースト教育資料センター、早稲田大学千畝ブリッジングプロジェクト、湘南まちいくプロジェクト、海さくら等の他、総合学習におけるフィールドワーク先多数との協働・交流を実施。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

神奈川県ユネスコスクール連絡協議会の各校とはネットワークを構築し、年1回の「ユネスコスクール神奈川県大会」等に係わる協議をしている。また、宮城県多賀城高校とは、今後、「防災・減災教育」に関わる交流を深めていきたいと考えているが、12月に多賀城高校生徒会の皆さんが来校してくださり、今後の本格的交流を開始するための第一歩になったものと考えている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

学園祭において、有志生徒主体で、熊本地震の被災地支援の一環として、熊本県の温泉水を運んで「足湯プロジェクト」を実施した。クラウドファンディングや街頭募金をしながら資金を集めて実現をしたが、その間、学内外の多くの方々のアドバイス等をいただき、プロジェクト自体のブラッシュアップ、外部への効果的な説明方法の改善、生徒たち自身の被災地への思いの深化等、社会と直接つながる機会だからこそ得られたであろう、生徒たちのプラス面での変化が顕著であった。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

・「湘南学園 ESD カリキュラム」の策定作業の継続。
・中 1～高 3 の各学年における「総合学習」の継続実施。
・有志生徒を対象としたグローバルセミナーズ（カナダ、オーストラリア、アメリカ、ポーランド・リトアニア、イングランド、台湾）の継続実施。
・ロータリークラブの御協力による交換留学（ブラジル、ハンガリー）。
・中 1 全員参加による「ヤングアメリカンズ」実施。
・生徒たちによる自発的プロジェクト立ち上げを支援する体制として、「クラウドファンディングを利用した PBL」の継続実施。
・「かのや 100 チャレ」の継続実施。
・ICT 教育の拡充。
・教員室ペーパーレス化の推進。 等